

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100875		
法人名	キタノケア 株式会社		
事業所名	小規模多機能ホーム 北のケア		
所在地	札幌市中央区南3条東1丁目3アルファケア創成川公園ビル3階		
自己評価作成日	令和3年10月27日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_021_kan=true&JigyosyoCd=0190100875-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

支えられて、豊かに実りある日々を
地域と共に生きる福祉を目指し、安心と信頼につながるサービスを提示します。
尊厳と個性が尊重された生活を継続できる環境を目指します。
以上が事業所における経営理念であります。
各職員は皆、そこを目指し少しでも近づける様日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「小規模多機能北のケア」は、2019年9月に札幌市中央区に開設しています。地域は、観光客でにぎわう二条市場に隣接し、事業所向かい側には狸小路、徒歩圏内には複数のデパートや商業施設が立ち並び都心に位置しています。事業所の正面に広がる創成川公園をはじめ、緑豊かな大通り公園も散歩コースとして楽しめる場所でもあります。11階建てのビルの2階と3階にデイルーム、食堂と2つの浴室があり、安心・安全が確保された中で利用者はそれぞれの過ごし方で楽しめています。デイルームの壁面には、正月に手作りの巨大な鳥居としめ縄、賽銭箱が設置されるなど季節感があふれる装飾がされ、利用者大変好評となっています。理念には「支えられて、豊かに実りある日々を・・・」を掲げ、職員はその実践のために日々のケアに努めています。ケアの基本となる介護計画は半年に1度の見直しのほか、利用者の意向や健康状態、日常生活に変化があった場合や季節に応じた支援が必要となった場合には、介護支援専門員が中心となりの確な計画変更が迅速に行われています。開設後まもなく新型コロナウイルスの感染拡大となり地域連携が深められない中でも、施設長は自ら連合町内会議に出席するなど商店街役員や消防団との関係構築に努められ、地域密着型の事業所としての役割を認識されています。また室内でも楽しめる寿司のケータリングやマジックショー、演奏会など、様々なレクリエーションが検討されています。開設3年目となり地域交流、レクリエーション、医療機関とのネットワーク構築など様々な企画に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共に生きる福祉を目指すという事業所理念を共有し、実施のため日々取り組んでいる。	「支えられて、豊かに実りある日々を…」の事業所理念はテイルームに掲示し、周知、啓発、ケアの実践に繋がっています。朝礼時や会議時を活用し、職員が理念の理解をより深める取組を検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時勢的に交流は減らしているが、利用者と地域のつながりを作れるようこれから取り組んでいく。	2019年9月の開所直後に町内会に加入し、民生委員を通じて地域の商店街理事長や消防団との連携を確認しています。連合町内会の会議に参加し、関係構築に努めています。	開所半年でコロナ禍となり、地域との交流が進まない状態となってしまいました。個人商店や高齢者世帯の多い地域ですが、運営推進会議事録や事業所便りの発行など、事業所の存在や事業内容を周知していくことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍という状況もあり、地域との交流は今後の課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で外部から会議へのお招きは出来ませんが、会議内では報告や意見交換を行い、施設運営での改善やサービス向上に向けて取り組んでいる。	昨年度から感染症対策のため、施設内職員と利用者の参加で2か月に一度開催し、事業報告や意見交換をしています。町内会役員、自治体関係者、家族等へは開催前に意見や議題を聴取し、議事録も都度郵送しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状取り組めていないが、今後は積極的なコンタクトをとり、関係構築に力を注ぐよう取り組む。	各報告の際には直接窓口を訪問し、担当者に実情を伝えています。今年度から始まったリモート研修へや医療関係のネットワークに参加するなど、提供された情報をケアに繋がるよう努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる禁止行為について全職員が正しく理解し、身体拘束を一切行わないようケアしている。	身体拘束防止は理念の「安心と信頼」に繋がる部分でもあり、身体拘束防止に関する指針を定め、職員全員が参加している委員会が定期的に開催されています。事故や防犯防止のため玄関は家族の了解を得て、施錠しています。	身体拘束防止については、研修などを通じて指定基準において禁止の対象となる11項目について確認されています。今後は、全職員のより深い理解に繋がるよう、日々のケア内での疑問や具体例を挙げた研修が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について研修等で全職員が学び、一人一人が意識をもって注意、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの内容を理解し、必要である利用者には本人の声を聞きながら活用できるよう努めますが、現状は対象者はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、施設長・管理者・責任者が直接本人や家族の対応をし、不安や疑問の残らないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設長・管理者をはじめ、ケアマネ・介護職員もご家族来館の際には積極的に意見や要望の収集をしている。今後はアンケートなども取り入れていきたい。	家族から忌憚ない意見や要望が出る様に、職員は日頃から積極的に家族とコミュニケーションを取っています。今後は満足度調査を再度実施し、結果の公表や更なるケアの質向上に生かすことが予定されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや個別面談等も実施し、意見や提案を聞いて運営に反映している。	3、4か月に一度の個人面談のほか、週一度の会議は職員が議事進行する形をとり、意見収集を図っています。職員の提案からトイレ緊急コールを携帯型コールへ変更し、騒音問題解決と迅速なケア対応へ効果を上げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に環境改善と従業員満足度向上の意識を持ち、職員からの提案には素早く対応する意識を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育と能力の向上はテーマとしているが、時間的・人力的問題から十分ではないと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍という状況もあり交流の機会は作れていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用者本人の声には都度傾聴し、安心と信頼が得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時はもちろん、変更事項等がある際も都度内容を確認し、要望等を傾聴することで、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が不安に思っていることや要望等をしっかり聞いたうえで、必要な支援を見極め、検討し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、仕事として介護を行うだけでなく、お互いが共に支えあう関係を築き、変化にも都度対応している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の声や要望には傾聴しながら、本人にとってより良い支援ができるよう協力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活や考え方等を可能な限り理解する努力をし、変わらぬ生活ができるよう努めている。	感染症対策で外出制限がありましたが、訪問理容や訪問販売を利用しながら、馴染みの方との交流も少しずつ再開されています。友人・家族の来訪や外泊など一人ひとりに必要な支援を提供しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独等を感じないよう、利用者には細かく声掛けするよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後に相談等があれば即時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人本位のご希望に添えるよう全面的に取り組んでいる。	契約時に確認した生活歴などから作成された詳細なフェイスシート・アセスメントを基に、日常会話の中からも利用者の意向を把握し、職員で共有され介護計画に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしや、生活の仕方、利用していたサービス等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態をよく観察し、変化や現状について把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を含め関係者と話す機会を多く作り、意見や情報を共有したうえで、介護計画を作成している。	利用者と家族の意向を基に、介護支援専門員が中心となり職員・看護師・家族が協議した上で介護計画が作成されています。受診情報や日常生活の変化、季節などにより必要な計画変更も迅速な対応が取られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等に関して、口頭と書面で記録をし、常に職員間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ考えにとらわれず、本人や家族のニーズに対応して支援の改善等に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の内容を把握しきれていないため、本人が利用できるものは利用して、生活が豊かなものになるよう、情報を得て支援する。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を尊重し、適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医との協力も含め支援している。	利用者の希望に応じた医療機関とは、家族の協力を得て、受診情報を共有しています。必要時には職員同行するなど継続支援も実施しています。月2回の訪問診療と週1回の訪問歯科が提供されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員、訪問看護は情報共有を密に行い、利用者の変化や声に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは情報交換や相談等頻繁に行い、本人や家族の意向に沿えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を重視し、職員だけでなく病院等とも協力して対応している。	小規模多機能型事業所として重度化や終末期の対応は実施していません。契約時には利用者、家族にその旨を説明し了解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行うことができていないため、今後実施し緊急時に対応できるようにする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を通して災害時の行動について確認しているが、全職員がいざというときに行動できるようさらに努める必要がある。	避難訓練は自主訓練も含めて年に2回実施し、確認された課題について対策を協議しています。自立歩行が困難な利用者を迅速に避難できる簡易担架や自家発電機の準備のほか、食料の備蓄も進めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話をする時の言葉遣いや態度など、人格を尊重した対応をしている。	人格やプライバシーを尊重したケア実践のために、人権擁護や接遇マナーの内部研修を重ねています。利用者一人ひとりの性格や感じ方に合わせた話し方を職員間で共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者が声を発しやすい空気づくりをし、希望があった際は傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活をしていく上での決まりは守りつつ、一人一人の生活を大切にしよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人らしくあるために、希望をうかがって支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みに対しては、本人の体調も考えながらなるべく対応している。	外注先の業者とは2か月に1度会議で、味付けやメニューなど利用者からの要望を伝え、行事食や昼夕食の交換にも応じています。月に1度の職員による手作り食は大変喜ばれています。2班に分けた食事提供で感染症対策をとっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に関しては毎食記録を行い、健康状態やその変化を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア実施の呼びかけや、手伝いをして清潔を維持するよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調の変化や転倒のリスクも考えながら、一人一人に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの利用者の状態を把握し、朝夕の申し送りで職員共有しています。利用者の半数以上は衛生用品を使いながら排泄の自立が出来ており、プライバシーに配慮した見守り支援がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護職員との連携も行き、飲食物や生活の仕方ですべて予防・支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人と相談の上スケジュールを作成し、入浴方法も希望を聞いて支援している。	ゆったりと入浴できる大浴場とマンツーマン対応の浴室の2か所が毎日入浴可能となっており、介護計画に合わせた入浴支援が実施されています。入浴時には皮膚状態を入念に確認し、必要時には看護師が対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせて、安心して休息できる環境を提供できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や、飲むタイミング等を理解し状況に応じて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活の好みに応じて、希望等になるべく添えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、外出の支援を行って気分転換や本人の希望の尊重につなげられるようにしている。	隣接する市場や商店街、事業所前の創成川沿いなど多岐にわたる散策コースがあります。利用者の希望に沿いながら、気候に合わせて散歩や買い物など外出の機会を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を本人の希望に応じて正しく管理や使用ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の操作や手紙の投函など、本人への支援を通じて本人と大切な人との関係づくりに努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は清潔を保ち、装飾物などで季節感や癒しを作れるよう努めている。	家庭的な雰囲気のデイルームには、利用者の手作り品で季節ごとに様々な作品が掲示されています。食堂の窓からは創成川が見渡せ、十分な採光と開放感があります。感染症対策として高性能の空気清浄機を数台配置し、快適に過ごせるよう温湿度管理も行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時勢的に利用者同士の交流は減らしているが、お互いが協力し合えるような空間を今後作っていく。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の使い慣れたものを配置し、居心地良く、安全性のある部屋になるよう工夫している。	現在は利用者全員が同一建物内のサービス高齢者住宅に居住しているため、宿泊サービスの部屋は使用していません。急な利用があっても、対象の利用者が寛げ、安心・安全に過ごせるよう体制を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は安全性を重視した作りとなっており、自立した生活ができるような工夫も行っている。		